



BACH AREND

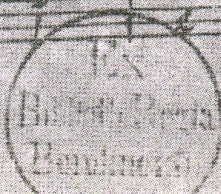
バッハのタベ

日時 1980年 2月 27日 (木)

場所 岩手県民会館大ホール

主催 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後援 東京芸術大学音楽学部同声会岩手県支部



ごあいさつ

今晚は、貴重なお時間の合間に多数御来場下さいまして誠にありがとうございます。

私共一同心から御礼申し上げます。

今宵の演奏団体である 芸大バッハカンタータクラブは、合唱と器楽、更にはソリストまで兼ねそなえており、日本ではきわめてまれな存在と言えるでしょう。そうした意味で、今年結成10年目を迎えるこの団体は、音楽を学ぶ者達の中にあっても、特に恵まれた特権をもっているメンバーの集まりとも言えます。

バッハの教会カンタータというバッハの音楽でも地味な分野を取りあげ活動してきた彼らが、う余曲折を経ながらもこの10年の歳月の中で作り出してきたバッハの音楽を今宵はお聴きいただけるものと思います。そしてこの団体の成長を暖く見守ってくださる 小林道夫先生の指揮の下で演奏される「バッハの夕べ」を会場の皆様と共に充実したひと時にしたいと存じます。最後まで、ごゆっくりお楽しみ下さい。

盛岡バッハカンタータフェライン

代表 石 倉 久 夫

10周年記念の演奏によせて

服 部 幸 三

バッハ・カンタータ・クラブが、このたび創立10周年の記念公演を開きます。

むかしイギリスのある文学者は「どんな面白い小説でも、教科書になるとつまらない」と言いましたまことに名言。学生生活の楽しい思い出はクラブ活動です。上野の森の片隅にある 東京芸術大学でも昼休みになるとなぜか校門のあたりにたむろする小林寺拳法をはじめ、いろんなクラブがあります。けれども、その中でクラシック音楽の演奏を正面から旗じるしに掲げているのは、バッハ・カンタータ・クラブただひとつです。

10年間変ることなく続けられてきたバッハの演奏、そのあいだ沢山の人達が入部し、沢山の人達が思い出を胸に巣立ってゆきました。声楽科、器楽科の有志のほか、作曲や楽理の人達の姿があり、時には美術学部の人も飛入りしました。彼らの青春の夢と心を、そんなにまで捉えつづけた バッハのカンタータとは、いったい何ものでしょうか。

「バッハは小川ではない。大海と呼ぶべきだ」と言ったベートーヴェンの言葉が正しければ、その大海のかくれた大きな水脈こそ、カンタータだと言ってよいでしょう。バッハの音楽が映し現わす森羅万象の世界を、珠玉のような形で1曲1曲に秘めるのが、200曲を超えるカンタータです。「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「クリスマス・オラトリオ」などの大曲も、その原点はカンタータであり、それを応用し拡大したものにすぎません。

今回のプログラムは、宗教改革記念日のための壮麗な「われらが神は堅き砦」をはじめ、10周年にふさわしい充実した曲目です。演奏する諸君にとって、さらに続く10年のための力強いステップとなり、御来聴の皆様に、心から喜んでいただける演奏になるようにと、念じています。〔顧問教官〕

指揮 小林 道 夫

演奏 東京芸術大学バッハカンタータクラブ

●ミサ曲ト短調 BWV 235

Messe in g-moll BWV 235

J.S. バッハ作曲

Alt. 佐々木まり子

Vc. 大木愛一

Ten. 石井健三

Kb. 吉浦勝喜

Bass. 大嶋恵人

Cemb. 伊澤長俊

Ob. 小木曾真紀 長岡大輔

●ブランデンブルク協奏曲 第4番 ト長調 BWV 1049

Brandenburgische Konzerte, Nr. 4 in G-dur, BWV 1049

Fl. 橋本睦美 下河智子

Viol. 田崎瑞博

Dirg. u. Cemb. 小林道夫

●カンタータ第80番「われらが神は堅き砦」

Kantate "Ein feste Burg ist unser Gott" BWV 80

Sop. 長尾康世

Pauk. 平尾信幸

Alt. 奥本とも

Ob. 小木曾真紀

Ten. 佐々木正利

Voil. 蒲生克郷

Bass 斎藤明夫

Vc. 山本恵以子

Trp. 田中 昭

Kb. 吉浦勝喜

奥野 敬

Cemb. 武久源造

佐藤希久雄

*カンタータ第80番にのみ盛岡バッハカンタータフェラインが合唱に加わります。



楽曲解説

ミサ曲ト短調 BWV 235

ミサとは、言うまでもなく、ローマカトリック教会の最高の儀式である。しかし、音楽としてのミサは、ルター教会等のプロテスタントの教会でも用いられ、その場合、ミサ通常文のうち〈キリエ〉と〈グロリア〉の部分（いわゆるミサ・ブレヴィス）のみからなっていた。

バッハは五つのミサ曲を残している。そのうち、最も有名な〈ミサ曲ト短調〉を除いた残り四つは、いずれもミサ・ブレヴィスである。これらは、その音楽的美しさにもかかわらず、19世紀に始まったバッハ音楽の再発見に於いて過小な評価しか与えられなかった。その理由の一つに、四つの作品がいずれも旧作の転用（パロディ）であるということがあげられる。すなわち、バッハは、自らが以前に作ったカンタータの中から適当なものを選び、多少の変更を加えて新たにミサ曲として用いたのである。このような方法は、当時の作曲家の常套手段であった。

中でも〈ミサ曲ト短調〉は、〈同ト長調〉と同様に、全曲が幾つかの教会カンタータからの転用で、バッハがライプツィヒにいた1736年頃の作である。以下に〈ミサ曲ト短調〉の各曲と転用された旧曲とを列記してみよう。

〔ミサ曲ト短調の各曲〕	〔転用された曲（原曲）〕
第1曲：キリエ	カンタータ102番「主よ、汝の眼は信ずる者を見守り給う（1726年）」より第1曲
第2曲：グロリア	カンタータ72番「すべてただ神の御心のままに（1723～27?）」より第1曲
第3曲：アリア（バス）	カンタータ187番「ものみな汝を待てり（1726年）」より第4曲
第4曲：アリア（アルト）	同カンタータより第3曲
第5曲：アリア（テノール）	同カンタータより第5曲
第6曲：クム・サンクト	同カンタータより第1曲

簡単に各曲の特徴を述べると、第1曲〈キリエ（主よ憐みたまえ）〉は、A B C A' という四部分からなり、「Christe eleison（キリストよ憐み給え）」のBと第二キリエのCは、みごとな展開をみせる合唱フーガである。Bを除いてオーケストラがほとんど合唱声部と重複しているので、オーケストラと合唱が一体となって美しい旋律を織りなしていくような印象を与える。第二キリエCから第一キリエが再現されるA'へといつとはなしに移行していくのも見事で、当時のバッハの驚くべき円熟ぶりが窺える曲である。

第2曲〈グロリア（いと高き所に栄光、神にあれ）〉は、冒頭からいきなり上昇コロラトゥーラがソプラノ・アルト・テノール・バスの順に現われ、カノン編み上げる。このコロラトゥーラは、バロックの音楽修辞法で『煽動・攪覧の様式（Stilus concitatus）』もしくは『激昂の情念（affectus doloris）』と呼ばれていた手法。「Et in terra pax（地には平和）」の部分では、フーガ的に展開する合唱を、オーケストラがカデンツのみで静かに支え、前後の激しく昂揚する部分とよい対比をなしている。

第3曲〈グラティアス（汝のたいなる栄光のゆえに）〉はヴァイオリン、バス、通奏低音による三声部曲、その三声が純粋に線的な絡み合いをみせている。

第4曲〈ドミネ・フィリ（主なる独り子）〉は、前曲とはうってかわって和声的、舞曲風な性格をもつアルトのアリア。

第5曲〈クイ・トリス（汝世の罪を除く者よ）〉は、独奏オーボエの華麗な旋律を特徴とするテノールのアリア。途中で拍子とテンポが変化し、対照的な二つの部分からなっている。

そして最後の第6曲〈クム・サンクト（聖霊とともに）〉は、カノン風な冒頭部分と次の長大な合唱フーガが魅力的である。（尾前文子）

ブランデンブルク協奏曲 第4番 ト長調 BWV 1049

始まるやいなや、フルート2本の楽しいメロディが耳にとび込んで来る。曲名など知らなくても、このメロディーに聞き覚えのある方は多いだろう。2本のフルートは、バッハの原作ではリコーダー（たて笛）という指定になっているリコーダーだったなら、もっと牧歌的な雰囲気が出ていたに違いない。けれど、当時に比べオーケストラの発達した今日では、横吹きフルートで代用することが多いのだ。で、本日もその形で演奏されるが、機会を改めてぜひ一度リコーダーによる演奏を聴いておきたい。

さて、1719年、当時ケーテンの宮廷楽長だったバッハは、宮廷用に新しく完成したチェンバロを受け取りにベルリンに出張しているが、その折、この地の宮殿に住むブランデンブルク辺境伯クリスティアン・ルートヴィッヒ（プロシア

王フリードリヒ・ヴィルヘルム1世の伯父)を訪ねている。その時の辺境伯の依頼に応じて、バッハは2年後の1721年それまでに ケーテン宮廷用に作曲した協奏曲の中から6曲を選んで伯に献呈した。後世この6曲をブランデンブルク協奏曲と呼んでいる。

ケーテンは、ザクセンとライプツィヒを結ぶ線のまん中にある東ドイツの小都市で、領主レオポルトの宮廷には17人編成のオーケストラ当時としてはビッグ・バンドなのだが置かれていた(しかも名手ぞろい!)。バッハは1717-23年の間、楽長を務め、この優秀な楽団のために膨大な数の協奏曲を作った。その数は、年間50曲以上とも推定されるが、このうち今日残されているのは、復元されたものも含めて13曲である。その約半数を占めるブランデンブルク協奏曲は、ケーテンでの彼の幸福だった日々を偲ぶ一片のよすがなのだ。

もともと別々の機会に作曲されたものを、送付の都合上寄せ集めて1セットにしたのだから、この6曲は楽器編成も作曲年代も全くバラバラである。本日の〈第4番〉は、1719-20年頃の作。ヴァイオリンと2本のフルート原作がリコーダーであることはすでに述べた3人のソリストがオーケストラと合奏する。双子の兄妹のように一体となって曲の中核を形作る2本のフルート、これに技巧的な対旋律を付して華麗なプレーを展開するヴァイオリン、独特のアタックを持ちしかも各パートが生き生きと動き回るオーケストラ、3グループの組んず解れつのかげ合いは、見ても聴いても楽しいものだ。一方、プレーヤーにとって、この曲の演奏は至難である。特に1・3楽章のソロ・ヴァイオリンの超絶技巧は目を見はるばかりだ。ケーテン宮廷では、コンサートマスターだった名ヴァイオリニスト、ヨゼフ・シュピースが妙技を繰り広げた。後にバッハ自身、このパートをチェンバロ用書き直して〈チェンバロ協奏曲第6番へ長調 BWV 1057〉としている。そればかりではない。最高音域のアルペジオをこなすフルートにとっても、オーケストラの各パートにとっても、最大級の技巧が要求される。

第1楽章 アレグロ ト長調 ¾拍子

重々しく4拍子、2拍子、で始まるという協奏曲の常識の意表を付いた軽快な3拍子。フルートの柔らかい音色を考慮した結果であろう。とはいえ、曲中には山あり谷あり、427小節にも及ぶボリュームたっぷりの楽章だ。ABC B' Aと三部形式を応用しているが、曲中の様々なモチーフを自由に使いこなして各パートが対話を楽しむB'がすばらしい。特にAに戻る直前、ヴァイオリンに導びかれてロ短調に転調するあたりの効果は絶妙で、このような長大な楽章でバッハの見せる得意技である。

第2楽章 アンダンテ ホ短調 ¾拍子

サラバンド(舞曲の一種)のリズムに乗って、ソロとオーケストラが対話を交わす。案内役は第1フルートで、カデンツァ用の音階が印象的。曲のモチーフは第1楽章で使われたものを用い、曲の終わりはフリギア終止を使って終わった感じを与えずに終楽章へ進むので、両者の橋渡しの役をうまく果たしている。

第3楽章 プレスト ト長調 ¾拍子

ヴィオラに始まる全楽器の壮烈なフーガである。中間部では、ソロ・ヴァイオリンのアラベスクが頂点に達して技巧の限りを尽くす。全楽器の中心を支える第2ヴァイオリンとヴィオラの大活躍も忘れられない。

注:年代その他の歴史的記述については多少の異説が存在する。(大倉文雄)

カンタータ 第80番 「われらが神は堅き砦」 BWV 80

この曲はカンタータ79番「主なる神は太陽にして盾なり」と同様10月31日の宗教改革記念日のために作曲されたもので、特に80番はマルティン・ルター自身の作によるコラール「われらが神は堅き砦」をもとにした有名なコラール・カンタータである。

コラールという言葉は日本語では「衆賛歌」と訳されているが、正確に言うならば、ドイツのルター派教会の讃美歌である。1517年、宗教改革の口火を切ったルターは、人はただキリストを仲介としてのみ神に近づき得る、という考えから信者各人が自ら神に祈り、神を讃美する事を提唱した。そのため彼は友人と共に、信者が自身で歌えるドイツ語の讃美歌を作る事に力を入れた。「われらが神は堅き砦」はこの様にして出来たコラールの中で最も有名なものの1つであり、讃美歌にも267番として収められているので、ご存知じの方も多しと思う。コラール「われらが神は堅き砦」の歌詞は聖書の詩篇46を、又旋律はグレゴリオ聖歌をそれぞれもとにしてルター自身が作ったものである。四連の詩から成るこのコラールは、この80番のカンタータの中で1・2・5・8曲に様々な形をとって登場して来るのである。

実はこの80番にはカンタータ「神により生まれしもの全て」という原型がある。それは1716年頃ワイマールにおいて作曲され、テキストとしてはコラール「われらが神は堅き砦」の第2連の歌詞と、宮廷詩人ザーロモ・フランクの自由

詩が使われた。バッハはその後ライプツィヒにおいて、1730年のアウグスブルグ国会二百年記念祭のために、それに2つの合唱を付け加えて改作した。それが現在の80番であり、ちなみに付け加えられたのは1曲目と5曲目の合唱である。

このカンタータの主眼は悪魔と神の闘いである。しかし「われらが神は堅き砦」のコラールを作ったルターにとって悪魔とは単に聖書に現われる悪魔ではなく、古い腐敗した教会制度の意味も含んでいたに違いない。キリストを唯一の仲介として神と結び付こうとする信仰心が、それを阻もうとする悪魔（旧教）に対して敢然と闘いを挑む姿がこの曲の中にはよく表現されている。その様な姿からは、八百万の神々を戴く日本人と違い、唯一の神を絶対的に信奉し、それを侵すものに対しては戦う事も辞さじ、というヨーロッパ人の宗教に対する考え方の一端が窺えるのではないだろうか。演奏がドイツ語の歌詞によるため、直接的にそれを実感する事は困難かもしれないが、せめて音楽的な要素からでもその様な面を感じて頂けるのなら幸いである。

第1曲：合唱

228小節に及ぶ壮大な合唱。冒頭からコラール旋律がテノール、アルト、ソプラノ、バスの順に歌われ、その力強い広がり「われらが神は堅き砦良き守りの武具なり」という歌詞の音楽的效果を高めている。

第2曲：アリア ソプラノ・バス

ソプラノとオーボエのコラール旋律とバスが勝利の確信を歌い上げる 急速な走句、更にそれに弦楽器の装飾的な音型が効果的に加わる。

第3曲：レチタティーヴォ バス

キリストの大いなる愛を力強く述べ、高まりと落ち着きを繰り返しながら次第に盛り上がり、その頂点でアリオソに入る。

第4曲：アリア ソプラノ

短い前奏に導かれてソプラノが神へのあこがれを歌う。静かな中にもエモーショナルなものを感じさせるアリア。

第5曲：合唱

コラール旋律がユニゾンで歌われる。それはあたかも、悪魔との激しい闘いの中であって敢然と敵を迎えうつ信者の団結を象徴しているかの様である。

第6曲：レチタティーヴォ

戦いにかかる闘志と、キリストに対する堅い信頼が語られ、やがて美しい旋律を持つアリオソへと入って行く。

第7曲：アリア アルト・テノール

カノン風に展開されるオーボエとヴァイオリン、そしてアルトとテノール。これらの美しい対話は聴く者を快い緊張に導いてくれる。

第8曲：合唱

勇壮に歌われる「われらが神は堅き砦」のコラールが一糸乱れず進行して行き、宗教改革記念日のカンタータの最後を飾っている。（木村麻里子）

MESSE in g-moll

〈ミサ曲ト短調〉 BWV 235

I Kyrie

1. Chor

Kyrie eleison.

Christe eleison.

Kyrie eleison.

II Gloria

2. Chor

Gloria in excelsis Deo,

Et in terra pax

hominibus bonae voluntatis.

laudamus te,

benedicimus te,

adoramus te,

glorificamus te,

3. Arie (Baß)

Gratias agimus tibi

propter magnam gloriam tuam.

Domine Deus, rex coelestis,

Deus Pater omnipotens.

4. Arie (Alto)

Domine Fili unigenite,

Jesu Christe altissime,

Domine Deus, agnus Dei, Filius Patris,

Qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

5. Arie (Tenor)

Qui tollis peccata mundi,

suscipe deprecationem nostram.

Qui sedes ad dextram Patris,

miserere nobis.

Quoniam tu solus sanctus.

tu solus Dominus,

tu solus altissimus,

Jesu Christe.

6. Chor

I キリエ

1. 合唱 (4声部オーボエ I / II : 弦楽: 通奏低音—ト
短調4/4)

主よ、憐れみたまえ。(マタイ 20、31)

キリストよ、憐れみたまえ。

主よ、憐れみたまえ。

II グローリア

2. 合唱 (4声部オーボエ I / II : 弦楽: 通奏低音—ト
短調 $\frac{3}{4}$)

いと高きところに栄光、神あれ

しかして地には平和

善き念いの人々にあれ。(ルカ 2、14)。

われら汝を頌めまつる、

われら汝を讃えまつる、

われら汝を拝しまつる、

われら汝を崇めまつる。

3. アリア (バス: ヴァイオリン I + II : 通奏低音—
ニ短調2/2)

われら汝に感謝を捧げまつる、

大いなる汝の栄光のゆえに。

主なる神、天の王、

全能の父なる御神よ。

4. アリア (アルト: オーボエ: 弦楽: 通奏低音—変
ロ長調 $\frac{3}{8}$)

主なる独り子、

いと高きイエス・キリスト、

主なる神、神の小羊、父の御子

なんじ世の罪を除く者よ、(ヨハネ 1、29)

われらを憐れみたまえ。

5. アリア (テノール: オーボエ: 通奏低音—変ホ長
調4/4 アダージョ [前半] → $\frac{3}{8}$ [後半])

なんじ世の罪を除く者よ、

われらの願いを受入れたまえ。

なんじ父の右に座したもう者よ、

われらを憐れみたまえ。

そはひとり汝のみ聖、

ひとり汝のみ主

ひとり汝のみ至高者にいませば

イエス・キリストよ。

6. 合唱 (4声部: オーボエ I / II : 弦楽: 通奏低音—
ハ短調4/4)

Cum Sancto Spiritu
in gloria Dei Patris.
Amen.

EIN FESTE BURG IST UNSER GOTT

1. Choralchor

Ein feste Burg ist unser Gott,
Ein gute Wehr und Waffen;
Er hilft uns frei aus aller Not,
Die uns jetzt hat betroffen.
Der alte böse Feind,
Mit Ernst ers jetzt meint,
Groß Macht und viel List
Sein grausam Rüstung ist,
Auf Erd ist nicht seinsgleichen.

(M. ルター作詩篇46篇に基づく戦闘の教会コラール《Ein feste Burg ist unser Gott》[1528]第1節)

2. Arie Choral (Baß/Sopran)

Alles, was von Gott geboren,
Ist zum Siegen auserkoren.
Wer bei Christi Blutpanier
In der Taufe Treu geschworen.
Siegt im Geiste für und für.
すべて神より生まれし者は、
勝利の民たるべく選ばれしなり。
キリストの血に染みし御旗のもと
バプテスマもて主に忠節を誓いし者こそ
御霊にありていよいよ勝ち進むなれ。

3. Rezitativ (Baß)

Erwäge doch, Kind Gottes,
die so große Liebe,
da Jesus sich

聖霊とともに
父なる神の栄光のうちにいませば。
アーメン。

《われらが神は堅き砦》 BWV 80

1. コラール合唱 (4声部; オーボエ I / II; 弦楽; 通奏低音 (オルガン—部分的にオブリガート—+チェロ+コントラバス) —ニ長調4/4)

われらが神は堅き砦、
よき守りの武具なり。
神はわれらを鮮やかに救い出したもう、
いまわれらを襲えるもろもろの苦しみのただ中より。
かの古き悪しき敵
いまや必死のあがきを見せつつ、
大いなる勢力とあまたの策略を振るいて
怖ろしき攻撃に出でんとするなれば、
地上の子らにて、これに耐うる者なし。

2. アリア (バス) とコラール (ソプラノ) の二重唱
(弦楽ユニソノ; オーボエ〔定旋律装飾作奏〕; 通奏低音—ニ長調4/4)

Mit unser Macht ist nichts getan,
Wir sind gar bald verloren.
Es streit' vor uns der rechte Mann,
Den Gott selbst hat erkoren.
Fragst du, wer er ist?
Er hießt Jesus Christ,
Der Herre Zebaoth,
Und ist kein andrer Gott,
Das Feld muß er behalten.
われらの力は無にひとし、
われらはもろくも敗れ去りぬ。
されどわれらに代りて戦う真の勇士あり。
こは神自らが選びて立てし戦士なり。
汝その名をば尋ぬるか?
その御名はイエス・キリスト、
万軍の主なる大君、
しかして神おん自らにしていますなり。
かれ敵の軍勢に一步をも譲ることなし。
(同上コラール第2節)

3. レチタティーヴォ (バス—末行アリオーソ)

思いみよ、神の子とせられし者よ、
いかに大いなる愛もて
イエスは汝のために

mit seinem Blute dir verschriebe,
wormit er dich
zum Siege wider Satans Heer
und wider Welt und Sünde
geworben hat!
Gib nicht in deiner Seele
dem Satan und den Lastern statt!
Laß nicht dein Herz,
den Himmel Gottes auf der Erden,
zur Wüste werden!
Bereue deine Schuld mit Schmerz,
daß Christi Geist mit dir sich fest verbinde!

4. Arie (Sopran)

Komm in mein Herzenshaus,
Herr Jesu, mein Verlangen!
Treib Welt und Satan aus
Und laß dein Bild in mir
erneuert prangen!
Weg, schnöder Sündengraus!

5. Choralchor

Und wenn die Welt voll Teufel wär
Und wollten uns verschlingen,
So fürchten wir uns nicht so sehr,
Es soll uns doch gelingen.
Der Fürst dieser Welt,
Wie saur er sich stellt,
Tut er uns doch nicht,
Das macht, er ist gerichtet'.
Ein Wörtlein kann ihn fällen.

6. Rezitativ

So stehe denn bei Christi blutgefärbter Fahne,
o Seele, fest
und glaube, daß dein Haupt dich nicht verläßt,
ja daß sein Sieg
auch dir den Weg zu deiner Krone bahne!
Tritt freudig an den Krieg!
Wirst du nur Gottes Wort
so hören als bewahren,
so wird der Feind gezwungen auszufahren,
dein Heiland bleibt dein Heil/Hort!

血を流して汝の盟友となり給いしかを!
そは贖い主 汝を神の軍勢につかしめ、
サタンの軍勢のひしめくこの罪の世と闘いて打ち勝つ
主の戦士たらしめんとの御心なり?
さらば汝の心を
サタンと諸悪の手にゆだねるな?
地上にて神住みたもう聖き天なる 汝の心の奥殿をば
荒蕪の地と化せしめざれ!
汝の罪咎を 痛める真心もて悔い、
キリストの御霊 汝に強く結びつき
たまわんことを求めよ!

4. アリア (ソプラノ; 通奏低音楽曲一口短調12/8 自由なダ・カーポ)

来ませ、わが心の家に、
主イエス、わが慕いまつる君よ!
世とサタンを追い出だし、
わが内に汝の御姿をば
新たなる光もて照り出ださしめ給え!
退け、おぞましき罪の兇貌よ!

5. コラール合唱 (4声部ユニソーン〔定旋律斉唱〕; オーボエ・ダモーレ I / II; ターユ [= オーボエ・ダ・カッチャ]; 弦楽; 通奏低音—ニ長調%)

たとえ悪魔 世に満ちて
われらを呑み尽くさんとするとも、
われら いたくは恐れず、
勝利はついにわれらのものなれば。
この世の君
いかに猛りて歯ぎしりするとも、
その兇手はわれらに及ばず。
げにこそ、彼は審かれたれば、
御言の一振り 彼を倒すに足れり。

(同上コラール第3節)

6. レチタティーヴォ (テノール—末行アリオーソ)

さらば キリストの血に染みし御旗の下に
おお 魂よ、堅く立て。
信ぜよ、汝の頭なる主 汝を見捨てたまわず、
しかり、主は先立ちて勝ちたまい、
汝にも栄えの冠に至る道をば開きたまいしことを!
喜び勇みて出で立て、主の御戦に!
神の御言をひたすらに
聞きて守らば、
敵は拉がれて逃げ去るべし。
汝の救い主こそ とわに汝の幸い/避け所なれ!

7. Duett-Arie (Alt/Tenor)

Wie selig sind doch die,
die Gott im Munde tragen,
Doch sel'ger, ist das Herz,
das ihn im Glauben trägt!
Es bleibet unbesiegt
und kann die Feinde schlagen
Und wird zuletzt gekrönt,
wenn es den Tod erlegt.

8. Choral

Das Wort sie sollen lassen stahn,
Und kein' Dank dazu haben.
Er ist bei uns wohl auf dem Plan
Mit seinem Geist und Gaben.
Nehmen sie uns den Leib,
Gut, Ehr, Kind und Weib,
Laß fahren dahin, Sie habens kein' Gewinn;
Das Reich muß uns doch bleiben.

7. 二重唱アリア (アルト/テノール; オーボエ・ダ・カッチャ; ヴァイオリン; 通奏低音—ト長調3/4冒頭リトルネロのみ反復、各行間に器楽間奏)

いかに幸いなるかな、
その口にて神を言い表す者は。
されどいやまして幸いなるは、
心に信じて神を抱きまつる者ぞ!
その心は不拔にして動ぜず、
敵を打ち破るをえ、
ついには栄えの冠を受くべし、
最終の敵なる死に打ち勝ちたる時。

8. コラール (4声部〔歌声パート補強用楽器指定特になし〕; 通奏低音〔バス歌声補強〕—ニ長調4/4)

世人こそぞりて御言をなみし、
おのが思いに高ぶるとも、
主はわれらと共に戦い、
御霊と賜物を与えたもう。
世の子ら われらより肉の命を、
財と名を、はた妻子をも取らんとせば、
取るにまかせよ、
彼ら得るところなし。
神の国はなおわれらに留まるなり。

●小林道夫 略歴

1933年生れ。

1955年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。

その後伴奏者として極めて幅の広い活動始める。

1956年 その地味な活動が高く評価されて毎日音楽賞新人奨励賞を受賞。この頃中山悌一氏と全国的な演奏旅行を行ない、ドイツ・リートとその演奏について深く学び、その後の大成の基礎をつくった。

1960年 この頃から、来日した世界的アーティストたち——ゲルハルト・ヒュッシュ、ヘルマン・プライ、ルードヴィヒ・ヘルシャー、ジャン＝ピエール・ランパル—と協演し広く注目された。

1965年 デトモルト北西大学に留学、チェンバロ奏者としては、ドイツ・バッハ・ゾリステン、フランクフルト・バッハ・オーケストラと協演。
帰国後はチェンバロとピアノの独奏及び伴奏、バロック音楽、アンサンブル、指揮、合唱等極めて多方面にわたる活躍をつづける。

1970年 第1回鳥井音楽賞を受賞。
この間、オーレル・ニコレ、エルンスト・ヘフリガー、フィッシャー・ディスカウ、モーリス・アンドレ等、一流のアーティストと協演、ジェラルド・ムーアに比肩する名伴奏者として知られ、ヘフリガーと、アメリカ、フィッシャー・ディスカウとヨーロッパ各地の演奏旅行をする。

1972年 ザルツブルグ国際財団モーツァルテウム記念メダルを授与される。

1979年 モービル音楽賞受賞



○ 東京芸術大学バッハカンタータクラブ

ソプラノ	井関 静子 長尾 康世	徳永ふさ子 木村麻里子	松本 和代 長友 由子	佐竹 由美	田中 康子
アルト	小畑 幸子 高橋 明子 桑形亜樹子	奥本 とも 山条 朝美	佐々木まり子 山本 純世	木下 千代 大越美由紀	服部 夏実 尾前 文子
テノール	佐々木正利 佐藤 淳一	石井 健三 小川 伊作	水野 克彦	川西 龍二	辻 秀幸
バス	斎藤 明夫 浦野 実成	曾我規巳夫 宝福 英樹	大嶋 恵人	今村 昌文	大門 康彦
ヴァイオリン	浦生 克郷 津留崎 京 島根 恵	岡野 綾子 田崎 瑞博 田中 昌子	三輪 敬子 川原 千真 上田 京子	小原 康子 小口あけみ	鎌田 暁子 大倉 文雄
ヴィオラ	李 善銘	杉山光太郎	須藤三千代		
チェロ	大木 愛一	山本恵以子			
コントラバス	吉浦 勝喜				
フルート	立川 和男	阿部 博光	木津 芳夫	橋本 睦美	下河 智子
オーボエ	小畑 善昭	松本 敦史	小木曾真紀	長岡 大輔	
ホルン	大貫 広				
トランペット	奥野 敬	田中 昭	佐藤希久雄	福田 善亮	
ティンパニー	近藤 健一	平尾 信幸			
オルガン・チェンバロ	武久 源造	伊沢 長俊	東 暁子		

○ 盛岡バッハカンタータフェライン

ソプラノ	石橋 裕美 内藤 久子	菊池 誠子 西村 尚美	斎藤 純子 盛内 三雪	澤田 東子 柳田 松子	菅原 節子 斎藤 祥子
アルト	潮田 容子 早川美美子	金山久見子 平沢 知子	桐原 絹子	高橋 孝子	乳井 明子
テノール	飯島 隆	石倉 久夫	鈴木 康之		
バス	小原 一穂	下田 潤	藤原	石井	
合唱指導	佐々木正利	練習伴奏者	飯島陽子	荒田寿美子	

会員募集

ただ今、盛岡バッハカンタータフェラインでは会員を募集しています。

当団体は昭和52年2月に発足した団体で バッハカンタータを歌うことを通して、バッハの音楽に親しみ学んでいくことを目的としています。合唱経験の有無にかかわらず、どなたでもお気軽に おいでください。

- ・練習日 毎週火曜日 PM6:30~9:00
- ・練習会場 カトリック志家教会伝導館
- ・練習曲目 教会カンタータ 40番、46番、182番
- ・連絡先 斎藤純子 TEL 22-2977

観光物産品総合卸・ギフト・ホテル用品販売



株式会社 北星観光商事

紫波郡都南村津志田14-70-1 ☎ (0196) 37-2208(代)



県産品・クラフトショップ

ホクセイ

ニチイ都南ローズタウン1F
TEL (0196) 38-6179

ハンバーグ & コーヒー

グリル 北星

ニチイ都南ローズタウン3F
TEL (0196) 33-6477

—— 音楽とのふれあい ——

電気のデパート

家庭電化製品・カラーテレビ・ステレオ・レコード



大通

佐々木電気

盛岡市大通1丁目 電話(23)3431(代) ■駐車場完備

大通本店 盛岡・大通1丁目
TEL 233431

開運橋店 盛岡・大通3丁目
TEL 641441

ニチイ店 都南・三本柳
TEL 387480

青山店 盛岡・西青山2丁目
TEL 470721

花巻店 花巻・吹張町
TEL 233318

ヤマハ音楽教室 春組生徒募集中

株式会社

東山堂楽器店

中ノ橋本店 盛岡市中ノ橋通一丁5の21
☎ 23-7128(代)

ヤマハ音楽教室 盛岡市中野1-20-7
☎ 54-1234

予約センター 盛岡市菜園1-3-6
農林会館5階 ☎ 23-6064

釜石センター 釜石市中妻町1-21-12
☎ (0193) 23-0750